

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(文化・観光部)

事業	14	事業名	ふじのくに芸術祭開催事業費
----	----	-----	---------------

1 基本情報

実施日／班名	9月7日 第2班	時間	12:45~13:55
担当課名	文化政策課	事業費	17,865 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	あまり効果がない	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	2
			一定の効果がある	10
			あまり効果がない	30

3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高さを求める、1年間に芸術や文化の活動を行う人の割合という数値目標を現状20%から50%にしたいという目標に対して、参加人数そのものの数値は上がっているが、事業目的とのズレがかなりあるため、目標に見合った目的に内容を考え直す必要がある。 ・「裾野を広げる」と「レベルの底上げ」のうち、後者が本来の目的だということなら、自己評価に「参加人数の増加」はいらないのではないかと。 ・ビジョンを明確に。何が目的の事業なのかははっきりしてほしい（現状と合うように）。
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や芸術といっても時代によって様々なものがでてくる、近年注文されている分野の美術・芸術を取り入れるべきではないか。 ・時代の変化により各部門の状況が変化しているので、一度部門の洗い出しが必要ではないか。 ・昭和32年から続いているためか、昔からの表現方法が固まりがちではないか。新しい分野にも寛容になっていくべき（現代アート、デジタル作品など）。 ・芸術（文化）の変化に対し、種目、やり方がマンネリ化している。今にあった多様なものにも展開すべき。 ・学校教育にも入っているダンス等、種目をふやしてはどうか。 ・新しい芸術を加える（例：IT関連）。 ・幅広い方の参加や関わる人々を増やすためには、音楽や映画など、一般に親しみのある分野での部門開拓が必要。 ・ファインアートなど、取り入れる芸術の分野をもっと多様なものにする。 ・参加者数が減っているということは、違う種目に興味が移っているということ。<u>ダンス等、子どもが活躍する新たな種目も増やしてほしい。</u>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい参加団体の発見が必要。 ・芸術祭開催の意味が分かりません。芸術祭の発表者のレベルアップを図るものなのか、観客の層を広げるのか。 ・各々やっている人にとっては何か発表する場は必要でしょう。ただし、県が主催する意義をもう少し明確にすべきではないでしょうか。県主催は“質的”にこだわりを持ってやるべきではないですか。

事業内容

- ・市町に任せただけがよいのでは。
- ・もっと内容の充実が必要。
- ・毎年同じことの繰り返しになっているのでは。テーマを決めて、重点的に予算を使う事も考えられる。
- ・目的に対して実際の業績（成果）が減少傾向になってしまっているのでは、団体の教える人が多いのであれば、そういう人達が県民に教える企画があってもよい。教えてもらい作品を作り、出展するというもの良いのではないのでしょうか。
- ・学校の文化祭や部活動と合わせて事業を進めてもよいのではないか。
- ・県が行うということで、各市町から選ばれたものを発表する場にするべきではないか。
- ・各市町での芸術祭の上位者作品を集めての展示でよいのではないか。
- ・昭和 36 年から芸術祭があったということに驚きました。歴史があることをもっと広めてもいいのではないですか。その経緯を通して、静岡が文化に対して熱心だということの魅力にすれば参加者が増えるのではないか。もしかしたら続けざるを得なかったのかもしれないが、文化を取りあえず行っていることを表面的に示すだけの展示会になっている。
- ・何か一部の分野に秀でていけば広まりやすいかもしれません。
- ・静岡ならではのオリジナルのアートフェスティバルを考え直すべき。
- ・芸術祭は市町での開催で、県では発表会等で展示するほうがよい。
- ・セミプロの芸術祭であれば、県が実施しなくても市町の文化祭で実施すればよい。廃止してもよい。出展数が市町では少ないものは市町の連合会で行えばよい。
- ・コンクール形式のものや単なる展覧会のものだったりして、形式もバラバラでは見に来る人も困惑しそう。いっそ「文化芸術オリンピック」とかいうタイトルにして、各種目で金銀銅メダルを競わせる内容にすれば参加する人のモチベーションアップになるし、見る人も分かりやすく刺激が強くなると思うが。
- ・県の芸術祭と市町の芸術祭との目的の違いを持たせる。
- ・参加者減少は、高齢化社会が進んでいるからだと思われる。中学校、小学校全校に参加者を求めてほしい。呼びかけが足りないのでは。
- ・子供達の規定は中高生と聞いていたが、小学生からでもよいのではと感じました。若い世代がもっと参加してくれればよい。
- ・県民へのPR方法を考えてほしい。（芸術系）
- ・続けていかなければいけない事業であると思う（費用効果を考えるものではない）。県民の表現の場である。ただし、参加者が減っている種目の予算は減らすべき（展示会を開く場所を小さくする等）。
- ・「ふじのくに芸術祭」という事業や施策目的というよりも、まず、美術展の高いレベルや、高い地位との評価がしっかりあるというこの事業の認知度を上げるほうが必要。この事業というか芸術祭を、先に魅力を感じられるような位置に持っていないと、県の芸術祭の参加者も増える要素はないし、違う形をとるのであれば特色を出すための別物に変えたほうがよい。
- ・プロレベルの認知もアマ参加（裾野を広げる意味でも）というような高見の地位確保に目を向けて、参加者のブランドへの認知を高めることが肝要です。
- ・芸術祭を県の芸術コンクールにしたらかどうか（市町の上位を県で行う）。
- ・ふじのくに芸術祭のコンクール参加団体として、人に教えることが出来る立場の人（プロ）が出るということですが、コンクールで賞が出るのであれば、素人の団体も出すべきではないのか。（素人のレベルアップにもつながる）
- ・子供たちが芸術文化を学ぶということですが、今の子供たちが水石の良し悪しが分かるのかが疑問である。結局は大人が強く言ってしまうと、子供たちが文句は言えないのではないか。
- ・作品の質の向上及び裾野の拡大を図るには、鑑賞者の視点が重要と思われる。県内外の人が見たいと思う作品展（芸術祭）として、事業の在り方を変化させる（例えば観光と組み合わせることが必要である。また、部門間のコラボレーションや、今の「部門」にはない芸術・技術を取り込むこともまた事業の効果を高めるのではないか。

事業内容

- ・マナーリにならないように。
- ・続けるかどうか真剣に考える時期にきているのでは。続けるには名称、審査員など一新する。
- ・現状の芸術祭では、裾野を広げる効果はない。芸術の品質維持、レベルアップするための施策とは別にすべき。
- ・子どもたちがもっと自由に参加できる体制を整えてほしい。
- ・大人のための芸術祭は公費でやるべきではない。自費だからこそやりがいを感じるのではないのでしょうか。
- ・県民が参加したいと思わせる芸術祭にするために、インパクトのあるPR活動をすべきである。
- ・芸術祭の対象となる人を明確化する必要がある。県民全員に係わるような芸術祭であるならば、出品数の多さもかなり重要。子どもや若者の芸術文化を学ぶ活動と称していながら、指導者の出品も多い。
- ・この芸術祭自体のブランドの位置は重要なのか。また、重要としたいのかははっきりしていないため、位置付けをはっきりしたほうが予算の妥当性など考えやすい。
- ・審査する側の視点も大事だけど、静岡県民が主役なはずである。出品数がなければ審査は必要なくなるため、裾野を広げることを主にしていってはどうか。
- ・芸術祭のコンクール部分については、県として力を入れる部分を明確にしてメリハリを付けた方がよい。
- ・ワークショップは、各市町で実施している内容と重複している。県がやる必要があるか御検討ください。
- ・PR方法の工夫が必要。県民にあまり内容が知られていないと思います。(50年以上やっているとは知りませんでした)
- ・イベントを縮小してもよいのでないか。
- ・アートNPOなどとも協議し、敷居を下げる。ふらっと立寄れる芸術祭にしてはいいかがか。
- ・高い芸術レベルを維持しながら、自由に県民に見てもらおう工夫が必要です。PR活動を見直してください。
- ・人口減が深刻な中、参加人数の減少は仕方ないが、その割にイベント数が県市町を通じても多すぎる。
- ・実際に「芸術祭が県民に親しまれている」という結果が表れていない。学生アートフェスティバルは一部の学生であったり、限られた人しか参加できていないのに、芸術祭に対してこれだけの事業費をかけてよいもののでしょうか。伝統を守ることも大事ですが、時代に見合った開催内容にすべきです。
- ・団体だけではなく一個人、もっと個性に目を向けてあげてほしい。目立たないところにこそ芸術を呼べるものがあるのではないのでしょうか。
- ・文化協会に任せたらどうか。
- ・話を聞いていて思うのが、「芸術祭などを通して県民の文化活動を活性化する意味は何なのか。活性化されたら静岡県がどうなるのか」というのが見えてこないという点である。文化芸術を通して、故郷愛を育み、地域振興へとつなげたいという思いなのか、単に県民の精神的生活の質の向上を図ることなのか、先見性を示してほしい。そもそも文化・芸術を大切にすることが当たり前になっているが、なぜお金をかけてまで大切にしなければならないのかという点を説明してほしい。
- ・この事業は文化、芸術に興味関心のある人ありき。目的は機会の提供、学ぶ活動、文化活動の活性化の3つがあるが、結局は、文化活動の活性化だと感じる。しかし、今まで文化芸術に興味のない人が興味を持つことが活性化と言えられると思われるがその成果が感じられない。
- ・文化出前講座の開催が9校とは少なすぎる。
- ・53年続いた芸術祭ということはわかったが、今後の取り組みを真剣に考えていかなければ、存続が難しくなる。
- ・内容に新しさがなく、客観的に見て、参加しよう、応募しようとは思えない。少なくとも若者は食いつかない。

事業内容

- ・改善案として、一度でも参加したことがある人には、それから何らかの方法でその文化に関わり続けて活性化を図ることが必要になってくる。
- ・参加者が減少している種目の予算は減らすなどの工夫は必要。

(2)その他の意見

- ・現状であると数少ない団体のための芸術祭の開催なので、あまり開催の必要性はない。
- ・子どもに「あこがれ」を持たせる事業を県はやっていないのでは。
- ・質問に対する説明の内容が違っている事例があり、何を話しているのかが聞いていてよく分からなくなってしまうので、質問に対する説明をしっかりとしてほしいです。
- ・戦後の文化要望（要求）を引きずっているようで、本芸術祭として難がある。
- ・効果が見えにくいもののため、もう少ししっかりとした説明、資料作りをしていただきたい。
- ・美術展、書道展等で使用するパネルのリサイクル化。
- ・保守的に活動するのをやめるべき。
- ・管理不足。
- ・施策の目的がいまいち分からなかった。
- ・市町村、県の評価の違いの話などは、あまり関係のない話なのではと感じました。
- ・水石というものはじめて聞きました。
- ・2本立てでのほうが分かりやすい。
- ・県の芸術祭のブランド力がない。
- ・芸術祭はすばらしいことだと思います。
- ・美術展がレベルが高いということは分かりませんが、他の部門についてよく分かりません。
- ・根底から事業内容を改める必要があるのではないのでしょうか。
- ・全体を通して、事業説明が聞き取りにくい部分が多かった。要点を絞った説明方法をされたほうがよいのではないのでしょうか。
- ・事業目的の中に、子どもたちというものが入っているため、広範囲で数値や事業内容を見てしまうのは当たり前。目的が伝わりにくいのなら、目的の細分化を行い、それに見合った事業内容・数値を並べることが必要だと思う。「1つにまとめなければならない」のではなく、分かりやすさ重視で考えれば、決まった方式（書式）から外れても目的がきちんとまとまっているようにしてほしい。目的がまとまっていないから目標と事業にもまとまりがなくなって、結果目的に見合った妥当性が見えてこない。
- ・国民文化祭への参加も見据えた施策があっただけよかった。
- ・県が果たす役割がよく見えない。
- ・芸術関係団体ごとに芸術祭をやったら。
- ・50年1日の如く事業を進めている感じがする。
- ・芸術祭に関わる人の数は年々減っているが、それに対する具体的な対策、危機感があるようには思えなかった。
- ・芸術祭に作品を出展するメリットは何か。受賞したら経歴になるのか。
- ・専門委員の意見にもありましたが、芸術祭参加者を増やすことと、芸術祭・賞の価値を高めることは両立が難しいのではないかと。
- ・50年の歴史でもって方向転換が難しくなっている点があるのではないかと（組織的課題はないか）。
- ・県のコンクールを止めるだけでなく、いい作品は国の同じようなコンクールに出展するのもありではないか。
- ・事業自体は伝統もあり、趣旨もはっきりしているのでよい。
- ・鑑賞者数というのは参加者の親族や友達なのではないか。学校関係者であつたら教師しか発表会に参加しないのではないかと。それでは、県民の文化活動の活性化とは違う、もっと小さなものになってしまうのではないかと。

- まず、このふじのくに芸術祭自体の存在を知らなかった。
- 静岡の県でわざわざこの事業をやる必要があるか。今社会ではそれ程多くのもは必要でないのではないか。
- 芸術祭開催当初より開催団体の減少によりやり方等改革が必要。
- 続けていってほしい事業です。県民の表現の場を維持してほしい。